

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果および考察

大阪狭山市立第七小学校

1. 昨年度の学力向上の取組みの成果と課題

昨年度の国語の調査では、「話すこと・聞くこと」について特に課題が見られ、算数の調査では、「図形」と「データの活用」の領域に課題が見られました。

子どもが「やってみたい」「考えてみたい」と思う課題を設定し、生活のなかの身近な題材など、子どもの興味をひく導入をとり入れ、「1時間のめあて」や「単元を通しためあて」を明確に、問題解決的な学習展開を行い、「自分で考える」「伝え合う」「練り上げる」思考場面の充実を通して「主体的・対話的で深い学び」の成果が少しずつ表れてきました。

2. 教科における成果と課題について

【成果】

国語では、学年別配当漢字を文の中で正しく使う問題、目的や意図に対して、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討する問題、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基にとらえる問題、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考える問題が全国平均を大きく上回りました。基礎的な力、言葉の特徴や使い方に事項、伝えたいことを明確にして、表現する力がついてきました。

算数では、見取り図の問題、球の直径と立方体の体積を求める記述問題、道のりが同じ2人の速さについての記述問題、折れ線グラフの読み取りについての問題が全国平均を大きく上回りました。図の読み取り、解釈の力がついてきました。

【課題】

国語では、目的や意図に応じて、集めた材料を分析したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にする問題、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討する問題、人物を具体的に想像する問題が全国平均を下回りました。メモの整理の仕方の読み取り(選択式)、メモの書き表し方を説明(記述式)条件付き記述でしていない回答が府・全国との比較でないが本校の正答率が低かったです。そのために、グループで話し合い、互いの考えを整理したり、まとめたりする回数を増やすとともに、読書の幅を広げ、調べたり考えたりしたことを報告する機会を増やします。さらに、振り返りなどで、条件や文字数に合わせて書く取組みをします。

算数では、問題場面に対応する立式の問題、計算の性質の活用/記述の問題、除数が小数の時の商の大きさを求める問題が全国平均を下回りましたので、長文を正確に最後まで読む力や自分の考えを書かせる力をつけさせ、授業内で100文字程度の文章を書く機会を確保します。

3. 児童生徒質問紙調査について

項目	肯定的割合 (%)		
	R5 本校	R6 本校	R6 全国
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	75.3	90.9	83.5
英語の勉強は好きですか	73.0	77.3	69.3
いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか	92.9	100.0	96.7
国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いていますか	78.8	87.9	83.2
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	75.3	65.1	75.8

「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の質問の肯定的回答の割合が大きく伸びていることは、いろいろな取組みに地域のゲストティーチャーを招いたり、校外に出て行き、地域の方々に直接教授していただいていることが大きいと考えられます。

英語教育でも中学校区の連携で英語に意欲関心をもてるような課題作りや、市内統一の4ルール（クリアボイス・アイコンタクト・ジェスチャー・スマイル）とレスポンスで伝え合う力の育成により、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する取組みをさらに行っていきます。

「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問には肯定的な結果が100%でありました。学校挙げてのいじめは絶対許さないという姿勢、学校朝礼での全体指導、アンケートの実施と各学期末に児童一人ひとりとカウンセリングを行っていること、オンライン健康観察を実施していることが大きいと考えられます。

「国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いていますか」の質問では、本校の研究テーマ「子どもが主体的・対話的で深い学びができる授業をめざして」の実現に向けた国語科における授業づくりの成果が見られました。

「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の質問で肯定的な回答が全国・本校の昨年度より下回りました。他者を受け入れて共感する力や、違いを豊かさに変える力が、これからの時代に求められており、教科学習だけでなく、特別活動、総合的な学習の時間、学校行事など、学校における教育活動全体を通して取り組んでまいります。